

保護者各位

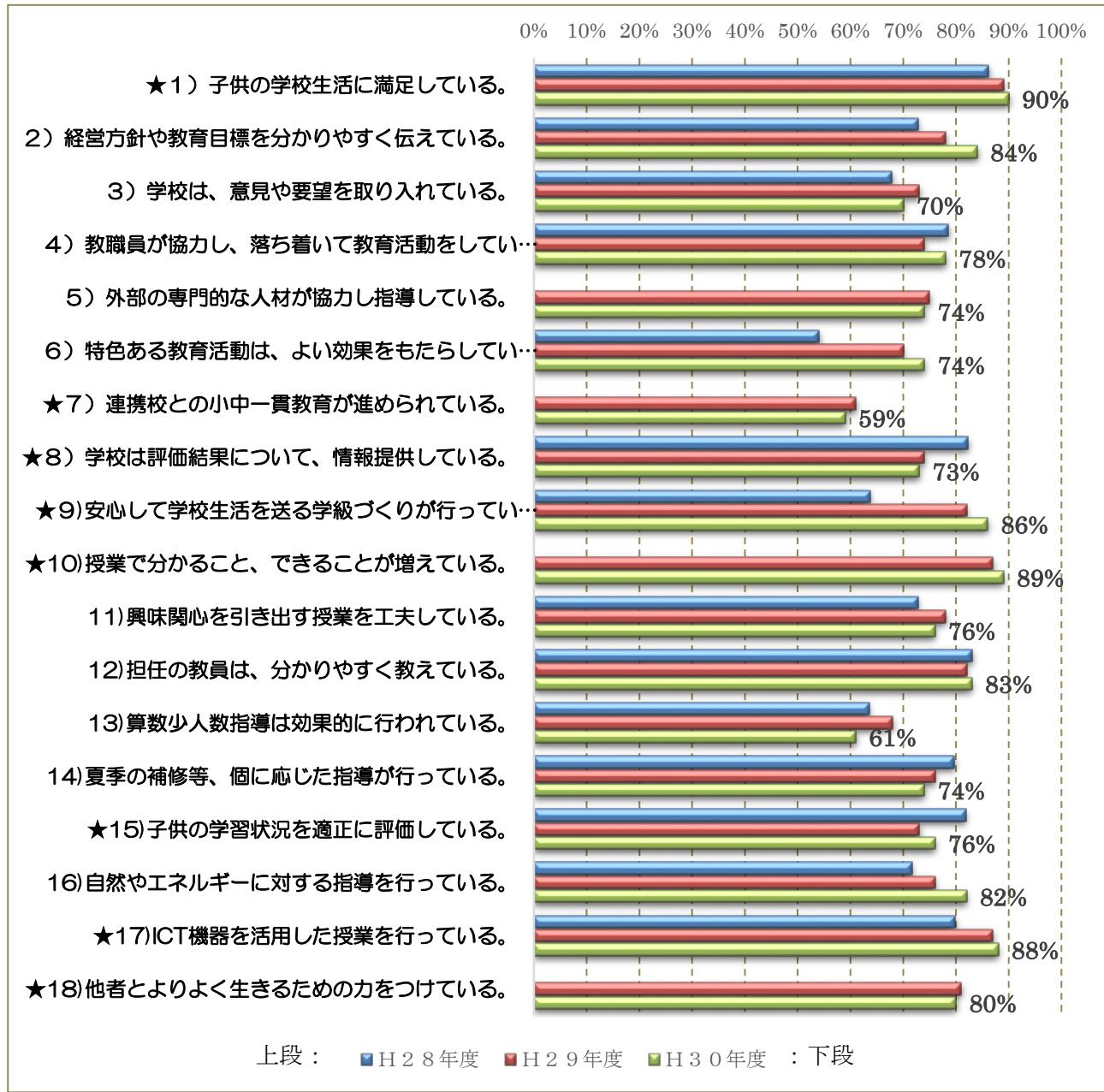
杉並区立西田小学校

校長 小堂 十

「平成 30 年度杉並区教育調査」および
「西田小よりよい学校づくりアンケート」集計結果について

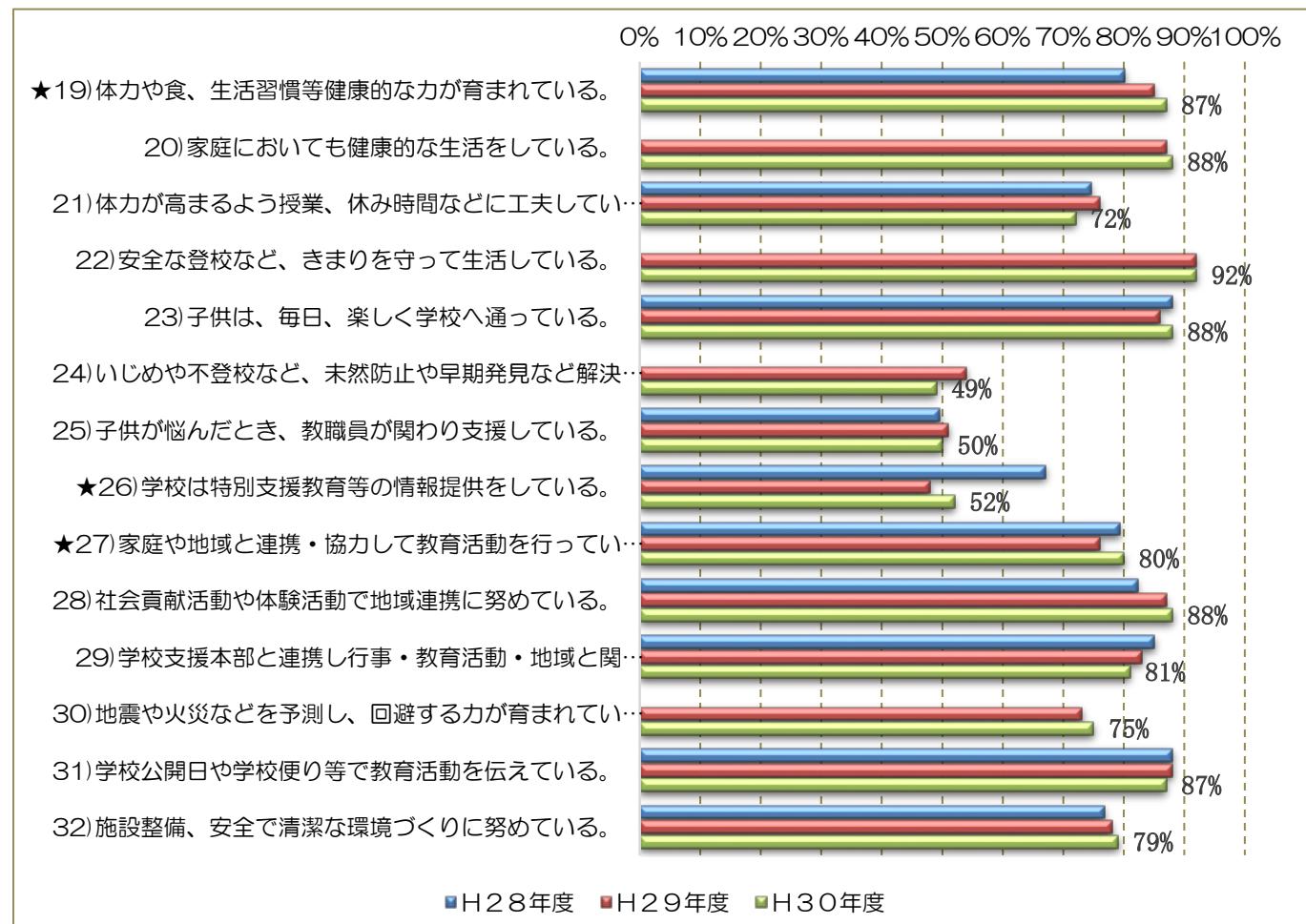
今年度実施した、杉並区教育調査と本校の「よりよい学校づくりアンケート」の集計結果について学校運営協議会でも話題とし、対応策について検討しましたことをご報告します。アンケートにつきましては、趣旨をご理解いただき、ご協力くださりありがとうございました。各項目について出された結果を真摯に受け止め、来年度の学校計画（教育課程）作成の資料とさせていただきます。

アンケート結果（保護者の肯定率）



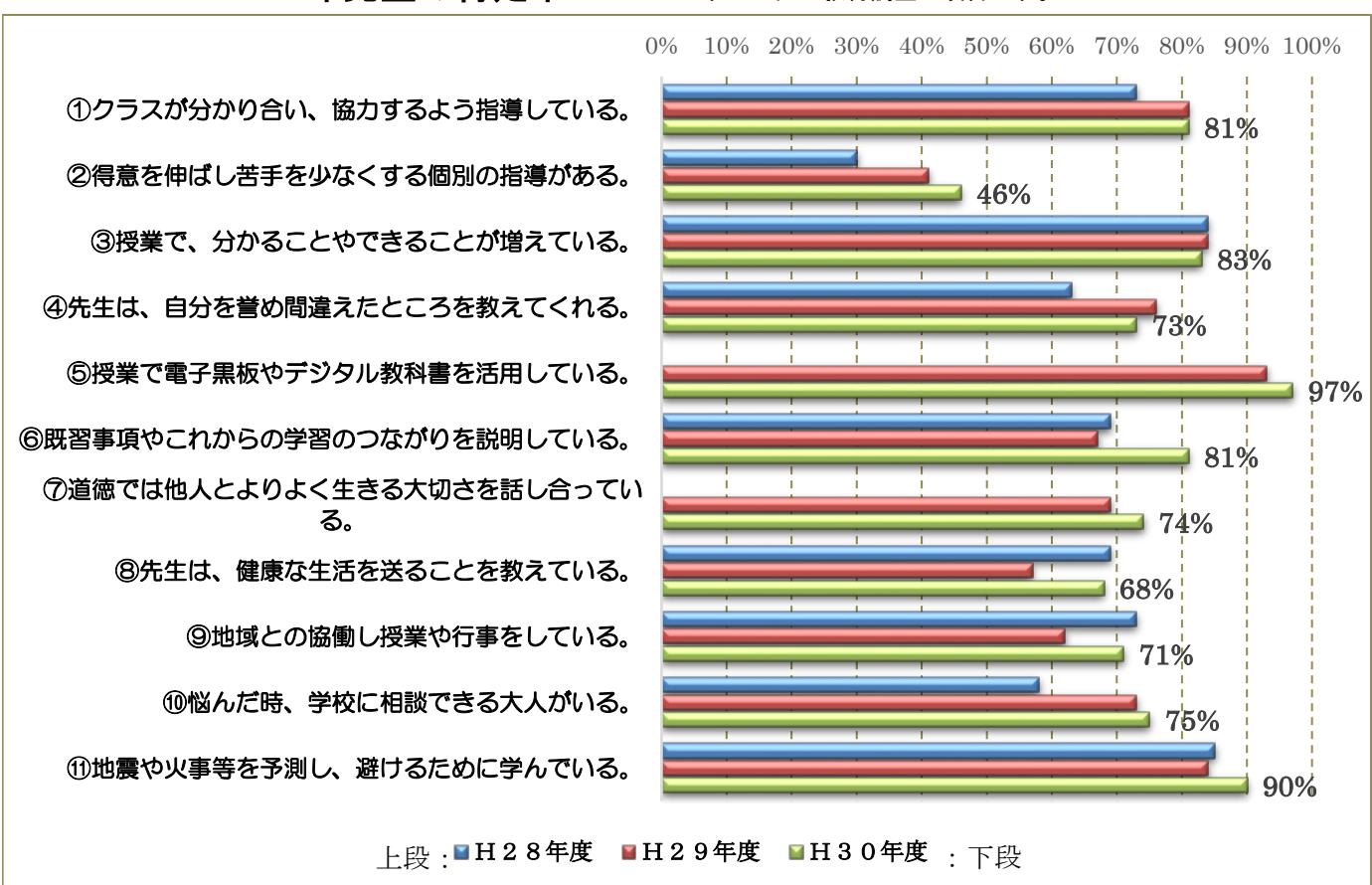
★のマークの項目は区の教育調査の項目です。

*裏面は結果の考察が記載されています。



5・6年児童の肯定率

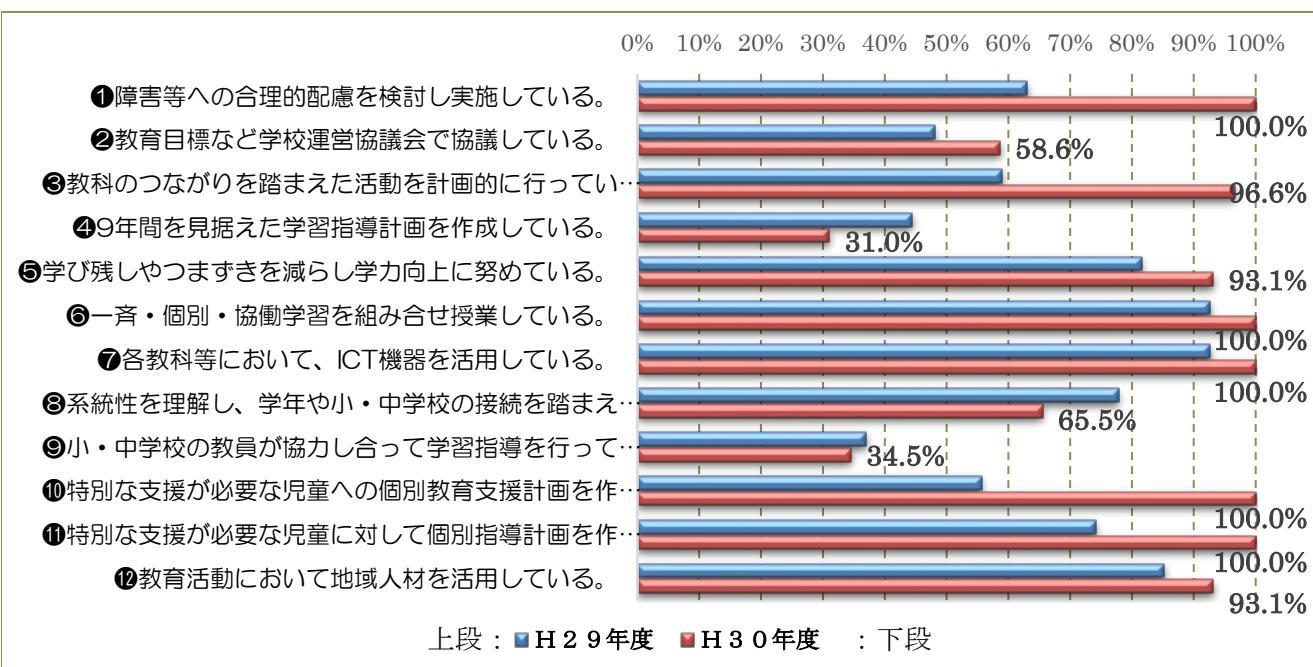
※すべて区の教育調査の項目です。



教職員の肯定率

※すべて区の教育調査の項目です

※教員への項目は平成29年度に変更があったため、2年間の比較となります。



「杉並区教育調査」ならびに「よりよい学校づくりアンケート」集計結果を受けて
今回の保護者の提出率は、全児童数に対して75.4%でした。2年の保護者の回収率は80.5%で一番高く、1年が68.8%で他学年に比べ低い回収率でした。

■ 学校経営について

子供の学校生活に満足しているという保護者が90%になり、非常に高い肯定率となっています。No.2の経営方針についても、ユネスコスクールとしての取組が保護者に徐々に伝わってきてている結果と思われます。昨年度より5%の増加となり、84%の肯定率となっています。

〈小中一貫教育について〉

小中一貫教育については、6年と1年の保護者の肯定率が約70%と高く、他学年と10%近い差があります。肯定率が大きく異なるのは、学年によって小中学校の交流を実感する場に差があるからだと考えます。「9年ひとつなぎ 小中連携通信」で発信しているように、6年生の中学校訪問、部活体験、高学年と中学生との「いのちの学習」の実施、作品交流、古着回収の協力依頼など、児童と生徒が交流する活動に取り組んでいます。しかしながら、指導する内容の系統性や指導方法を統一させることは難しいのが現状で、教員のアンケート結果No.④⑧⑨の肯定率が低いことからもうかがわれます。学校運営協議会からは、「優先順位の問題である。管理職同士でしっかり方針を立てる必要がある。」という指摘を受けました。



■ 学習指導について



学習に対する評価（No.10、12）は徐々に上がっています。特に「分かりやすい授業」については、1年92.2%、6年が89.6%と続く結果となりました。児童のアンケート結果No.⑥を見ると、既習事項の確認や学習のつながりが飛躍的に伸びています。これは、教科等横断的な指導の充実とともに、総合的な学習の時間で各学年の取組が積み上げられて課題追究が行われていることが、児童にも意識化された結果と考えます。教員へのアンケート結果No.③でも、カリキュラム・マネジメントに関する項目が37.3%も向上しました。ユネスコスクールの授業改善を通して教科等横断的な指導が教員の中に認識された結果と考えます。

<算数少人数について (No.13) >

算数少人数に関する設問は肯定率が61.3%と減少しました。詳しく調べると、「分からない」と回答した保護者が算数少人数を実施していない1年(40.3%)と2年(30.5%)に圧倒的に多くいることが要因であることが分かりました。来年度当初では、少人数を行っていない学年にあっても、全体保護者会等で学校の取組を説明する場を作る必要があると考えています。

<ICTの活用について>

児童のアンケート結果⑤では、ICTの活用がさらに児童に認識され97%に増加しています。この結果は単に電子教科書を映すだけでなく、教科書以外の資料もICTを活用して展開する工夫が当たり前になりつつあるとともに、児童がタブレットPCを日常的に活用している意識が結果につながったと考えます。この数値を維持するためには、学習内容の質の向上とICTの活用がリンクしなければできないと考え、今後も努力していきます。



■ 体力の向上・休み時間の活用について



体力の向上、休み時間の工夫については、70%付近で留まっています。体力テストの結果を踏まえつつ、体力向上の具体的な取組や休み時間等の活用など検討していく必要があります。学校運営協議会委員からは、「体力が高まるためには放課後等に校庭で思い切り遊べる環境を作ることが良いので、他校のような工夫ができないか。」という意見が出されました。実施に当たっては地域の力が必要です。PTAや学校支援本部とも連携して改善策を考えていくことが大切であると考えます。

■ 子供の学校生活（教育相談・いじめ・不登校）

いじめや不登校については49%の肯定率となりました。否定的回答は平均6.0%で、「分からない」が多いのは1年33.8%、3年29%でした。学校運営協議会からは、いじめのない学校にするために、「いじめとは何かを児童・教員が理解する取組を行い、保護者に発信する」「保護者からの目安箱を設置する」などが意見として出されました。いじめは絶対許されない行為であるという学校の姿勢は変わりません。本校では、毎週1回生活指導朝会で情報を共有しきめ細かな指導につなげています。いじめ防止のアンケートの実施、スクールカウンセラーとの面接などを充実させる他、児童によるいじめ防止の活動など、現在行っている活動をさらに充実させるとともに、「悩んだときに相談できる大人がいる」体制（児童のアンケート結果⑩）をさらに工夫したいと思います。保護者の方も気になつたことがありましたら遠慮なく、担任、学年主任、管理職へご連絡ください。



■ 特別支援教育等の情報提供について

保護者のアンケートNo.26、特別支援教育への情報提供は52%の肯定率に留まり、「どちらでもない」23.7%、「分からない」12.4%、「情報提供されていない」という保護者が11.9%でした。学校運営協議会からは、「にした教室に通う児童は限られているが、特別支援教育については保護者全員が理解すべきことで、皆の考え方を変えていく必要がある。」という意見が出されました。今年度は、土曜学校公開にあわせて、にした教室の巡回指導教員が活動のねらいや様子などを紹介する機会をもちました。来年度は、土曜学校公開日の他にも学年当初に説明するなど、情報提供する場を工夫するとともに、杉並区からの情報も積極的に保護者に発信する工夫をし、特別支援教育の理解を広げていきたいと思います。一方、教員のアンケートNo.⑪⑫からは、特別な支援が必要な児童への指導計画や支援計画の肯定率が向上し、特別支援教育の指導が充実していることが分かります。また、教員アンケートNo.①の合理的配慮についても、にした教室が軌道に乗り100%まで向上しました。巡回指導教員や特別支援教育専門員による指導の効果があるという教員の実感や、学習支援教育専門員の関わりが結果につながったと考えます。